

O-CUP 2002

斉藤貴之
(東京 OLC)

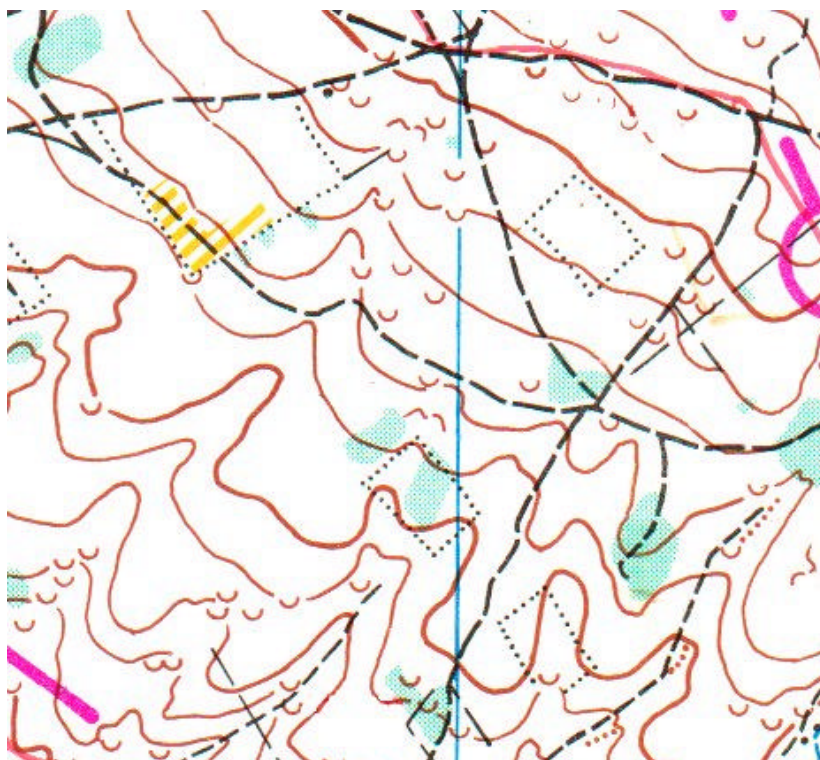
2002年10月13-14日。伝統のマルチデイイベント O-CUP が開催される。伝説のトレインが長い眠りから覚め、オリエンティアを迎える。

24年の歴史を持つO-CUP

O-CUP とは、東京 OLC クラブが主催する2日間大会の名称です。基本的に、地図調査から始めて実際の運営まで、持てる総力を使って行なわれるクラブ最大のイベントであります。

初めて O-CUP の名を冠した大会は、1978年1月に埼玉県嵐山町で、「新春 OLC2日間大会」と銘打って行なわれた O-CUP'78 ですから、都合24年の歴史を持つこととなります。その間、O-CUP'80(1980年5月：埼玉県秩父市・寄居町)、O-CUP'83(1983年4~5月：長野県原村・富士見町)、O-CUP'91(1991年5月：長野県富士見町)、O-CUP'93(1993年8月：秋田県秋田市)、O-CUP'98(1998年11月：東京都青梅市)の各大会が開かれています。今度の O-CUP2002 は4年ぶり7回目、今世紀初の開催となります。クラス分け等でその時代時代を反映した変化は常に伴っているものの、2日間合計のタイムで優勝を争うという形式には各大会とも変化はありません。

O-CUP'78 の際、当時の上位クラスであった H21A、H35A、H19A、D21A の4クラスの優勝者に大型のカップが授与され、以後開催ごとにそのカップが持ち回りで争奪される、という形式になりました。現在は ME、WE 両クラスの優勝者に(持ち回りで)授与、ということで落ち着いています。ちなみに前回・O-CUP'98でのカップ獲得者は、ME・藤城公久さん、WE・金並由香さんです。



O-CUP '91 で使用された O-map 「富士見高原」
83年と91年にO-CUP用として地図化され、夏合宿用トレインとして一世を風靡する。バブル経済期のゴルフ場開発の波からも守られて、今も美しいカラマツの林に包まれている。

眠りから覚める富士見高原

使用するトレイン「富士見高原」は、八ヶ岳南麓、編笠山の南西斜面に広がる緩傾斜の片斜面です。80年代の初めに東京 OLC クラブの練習会用として作られた地図が最初に作られたものと思われます。当時の経緯が全く不明なので、いつ誰がここに着目したのかははっきりしていません。O-CUP'83の2日目に本格的な大会用トレイン(地図名「富士見高原」としてデビュー。O-CUP'91の1日目に「富士見の森」の図名でリメイクされてO-CUP2回目の使用となりました。同大会では隣接する「AMIGASA」も2日目のトレインとして初登場しています。

傾斜が緩やかで、特徴物に富み、通行可能度高く直進主体のコースを思う存分組むことが可能、それでいて道も発達して

中~下級者向けのコースも容易に組める、といった優れた特性を持ち、ヨーロッパスタイルのオリエンテーリングのできるトレインとして、最初に使われた当時から非常に評価の高いトレインでした。O-CUP'91で作成された地図「富士見の森」は練習会・合宿等で多数のオリエンティアに愛用していただきましたが、とある大学クラブの合宿の際に地元の別荘住民との間にトラブルが発生し、それがきっかけで、1993年秋シーズンより実質使用自粛となってしまいました。

O-CUP2002 へのお誘い

国内屈指の好トレインである富士見高原を再開しての O-CUP の開催は、東京 OLC クラブとしても長年

の悲願であったのですが、関係者各位のご協力もありましてこのたびようやく実現にこぎつけることができました。クラブ創立30年の節目の年に開催できるのも非常に幸運と言えるでしょう。長い時間の中で東京OLクラブのクラブ員もかなり減少・高齢化して、クラブ自身のパワーダウンも否めませんし、オリエンテーリングを取り巻く情勢も以前とはまたかなり変わって来ているのも事実です。しかしながら、オリエンテーリングが好き、みんなでも楽しみたい、楽しんでいただきたいという心変わりはないつもりでもあります。

今回の大会も、素敵なテレイン、東京OLクラブ伝統の心を込めた手作り運営に加え、電子パンチシステム等の時代が贈ってくれた新機軸も取り入れ、秋の二日間を大いに堪能いただけるよう、スタッフ一同誠

心誠意準備・運営に当たる所存です。参加された皆様が大会を存分に楽しんでいただければ、それは我々の大きな喜びとなるでしょう。

なお、大会に関する最新情報等は、インターネット上でもO-CUP2002ホームページを設け、随時掲載される予定ですので、こちらをご参考いただければ幸いです。

<http://www.fureai.or.jp/~takachan/OL/OCUP2002/index.html>

皆様のご参加を心よりお待ちしております。上げております。

O-CUP2002

東京OLクラブ創立30周年記念
2日間大会

開催日：

1日目 2002年10月13日(日)

2日目 2002年10月14日(祝)

両日とも荒天中止、雨天決行

会場：

両日とも富士見高原スキー場・レストハウス

交通：

両日とも中央本線富士見駅よりチャーターバス所要時間30分 富士見駅停車の特急に合わせて運行する予定です

駐車場：

両日とも富士見高原スキー場駐車場。駐車スペースは十分ありますので、出来るだけ車での参加をお願いします

競技形式：

個人によるポイントOL
(クラシカル)

2日間の合計タイムで順位を決定する。1日目スタート時刻は事前に指定。2日目はチェイシングスタート。

地図：

縮尺 1:10,000 等高線間隔 5m
走行可能度 3段階表示

魅惑のチェイシングスタート

今回のO-CUPはチェイシングスタート方式を採用している。これは1日目のタイムによって2日目のスタート時刻を決定するもの。1日目に速かった人から順にスタートを開始する。1日目の成績で1位とのタイム差が3分あれば、1位の人からスタートしてから3分後にスタートする。そして最初にフィニッシュしたものがそのまま合計タイムで優勝者となる。この企画は2日間イベントならでは。

この方式の醍醐味は、2日目のレースの駆け引きにある。自分のクラスのゼッケンを持つランナーを一人抜けば、総合順位が一つ上がることになる。

通常のタイムスタート方式のオリエンテーリングでは、競技中に自分の順位を知ることはできないが、このチェイシングスタート方式では、レース中に自分のだいたいの順位をリアルタイムに把握することができる。

しかも2日目に自分の周囲を走っているランナーというのは1日目の競技においても自分と同程度の成績を持つランナーばかり。それぞれのレベルに応じて、熱い火花を散らしながら森を駆け抜けることができるのだ。もうエキサイティングなレースになることは間違い無い。

実はチェイシングスタート方式というのは運営者に大きな負担を強いる競技方法でもある。スタートリストが前日の夕方まで決まらない、スタート時刻を秒刻みで管理しなくてはならない。しかし、この運営負荷の高いスタート方式をあえて採用した今回のO-CUPに、運営者の情熱を感じるのには私だけではないだろう。

昔と違って、今は電子パンチが運営の助けになってくれることと思う。それでも運営が大変なことに変わりはない。

富士見の森で熱く走るその日が待ち遠しい。(木村佳司)



ライバルとの勝負にこだわるのもオリエンテーリングの醍醐味だ。
(写真は水鷲刈大会 2001)